

3. 26年度予算の姿

- 予算編成方針
- 予算の概要
- 予算の姿
- 今後の財政収支概算（粗い試算）

予算編成方針

予算編成の原則

補てん財源に依存することなく収入の範囲内で予算を組むことを原則とするなど、将来世代に負担を先送りすることのないよう、財政健全化に
着実かつ積極的に取り組むとともに、資産の組換えも活用しながら、限られた財源のなかで一層の選択と集中を全市的に進める

こうした考えのもと、当初予算と補正予算を合わせ、

- ◆ 活力ある大阪の実現に向けた政策推進
- ◆ 府・市間も含めた行財政改革の強力な推進

「大阪の再生」への確かな歩みを進める

予算の概要

平成26年度予算(当初+補正)

一般会計

1兆6,822億円(対前年比+123億円)

【うち補正予算 195億円】

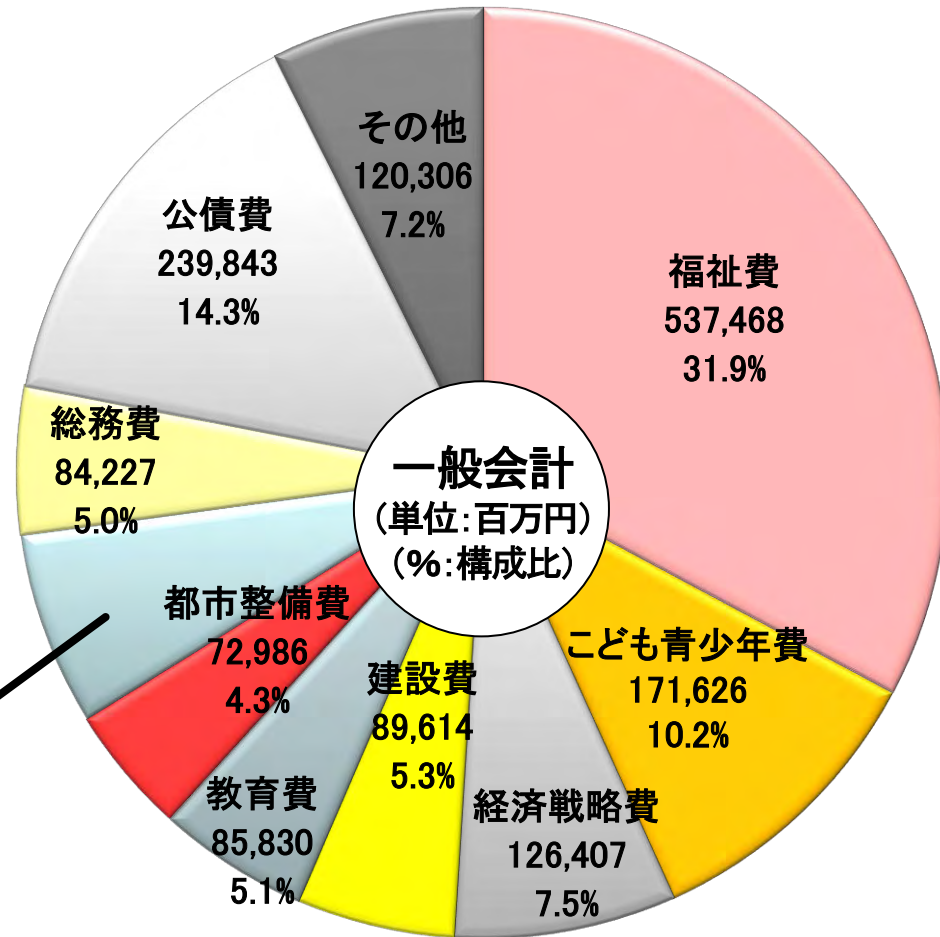
特別会計

2兆3,768億円(対前年比+2,743億円)

【うち補正予算 △216億円】

内 訳	予算額	構成比
健康費	43,676	2.6%
環境費	36,534	2.2%
消防費	35,587	2.1%
港湾費	15,406	0.9%
都市計画費	10,175	0.6%
公営企業費	9,710	0.6%
議会費	2,844	0.2%

目的別歳出予算



26年度予算の姿

活力ある大阪の実現に向けた 政策推進

- ・現役世代への重点投資
- ・大阪の成長に向けた府・市一体の取組み
- ・市民生活の安全・安心を確保
- ・区の特長や地域の実情に即した施策の展開
- ・資産の組換え

府・市間も含めた行財政改革の 強力な推進

- ・ムダを徹底的に排除し、成果を意識した行財政運営
- ・広域行政・二重行政の一元化と事務事業の連携に向けた取組み

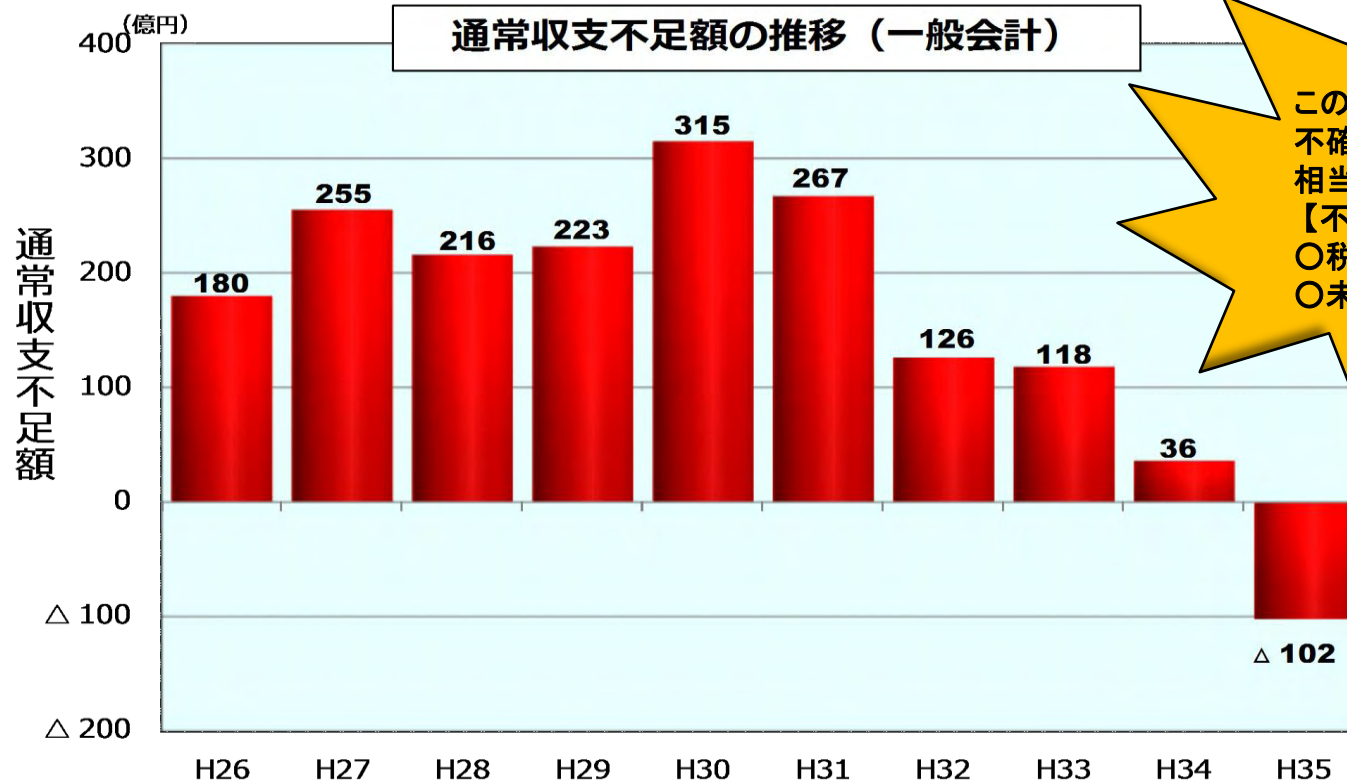
財政健全化を着実に推進

通常収支不足 $\Delta 180$ 億円
(25年度予算と比べ166億円改善)

上記への対応

つなぎの措置として限定的に補てん財源を活用
(不用地等売却代 131億円 財政調整基金 49億円)

今後の財政収支概算（粗い試算）



この試算には多くの不確定要素があり、相当の幅をもってみる必要がある

【不確定要素】

- 税収や金利の動向
- 未織込みの財務リスクなど



○ 通常収支（単年度）の均衡に向け、引き続き市政改革プランや府・市による広域行政・二重行政の一元化を着実に実現していくとともに、更なる自律的な改革に取り組み、補てん財源に依存せず、収入の範囲内で予算を組むことを目指し、持続可能な財政構造の構築を図る必要がある